

第8章 病診連携等推進対策

【現状と課題】

現 状

- 1 病院、診療所、歯科診療所の状況
多くの軽症患者が病院を受診することで、患者にとって待ち時間が長くなるとともに、病院勤務医には負担となっています。
多くの病院、診療所は、患者の病状に応じて他の医療機関に紹介・転送しています。
病診連携については、春日井市医師会、小牧市医師会、尾北医師会及び岩倉市医師会がそれぞれ独自の方式で実施しています。

平成7年度に医療圏内4歯科医師会において「尾張北部医療圏歯科病診連携運営協議会」を設置し病診連携を推進しており、平成10年度からは歯科口腔外科を標榜する病院との病診連携を実施しています。
- 2 具体的対応状況
愛知県医療機能情報公表システム（平成24年度調査）によると、地域連携体制に関する窓口を設置している医療機関は、当医療圏23病院のうちで19病院あり、県平均より多い状況です。（表8-1）
春日井市医師会は、平成4年度から16年度まで病診連携室を春日井市民病院内に開設して、平成5年度から高度医療機器利用の患者の利便性を図るとともに、平成10年度には50床の開放型病床を開設し、市民病院各科外来、専門外来の公開などの病診連携充実に努めてきました。平成17年4月1日からは春日井市民病院が同業務を引き続き行っています。
小牧市民病院は、3次医療を担う病院ですが、一般病院との間で生涯教育、患者相互紹介など病病連携に努めるとともに病診連携にも努めています。
尾北医師会では、病診連携に取り組んでいますが、最近では、特に個々の医療機関レベルでの独自の病診連携が図られ、その内容も充実してきています。
岩倉市医師会は、平成12年度から近隣の病院との間で病診連携に取り組んでいます。
- 3 地域医療支援病院
平成24年度に春日井市民病院が承認され、医療圏における病診連携システムの中心とな る

課 題

県民が病状に応じた適切な医療を受けるためには患者紹介システムを確立する必要があります。

医療機関相互の連携を推進するためには、患者紹介システムが重要ですが、実効的なシステムとするためには逆紹介のシステム（病院の退院患者を地域の診療所へ紹介すること）も平行して推進する必要があります。

歯科医療においても、高齢者、難病患者、心身障害者を対象とした主治医との連携が重要であり、病診連携のみならず、診診連携の強化を図っていく必要があります。

春日井市民病院の開放型病床、医療連携室をさらに有効活用するとともに、関係機関との情報交換を充実させ、今後も、適切な医療の提供を図る必要があります。

尾北医師会と岩倉市医師会管内における病診連携の今後の課題として、病診間の機能分担を図る必要があります。

ています。

【今後の方策】

病診連携の充実強化を図るため、医療機関の機能分担、相互連携の推進に努めていきます。

表8-1 病診連携に取り組んでいる病院

| 圏 域 | 病 院 数 (a) | 地域医療連携体制に関する窓口を設置している病院数 (b) | 割 合 (b/a) |
|---------|--------------|------------------------------|--------------|
| 尾 張 北 部 | <u>23</u> | <u>19</u> | <u>82.6%</u> |
| 県 | <u>325</u> | <u>216</u> | <u>66.5%</u> |

資料：愛知県医療機能情報公表システム（平成24年度）

病院数は平成24年10月1日現在